

陽気だより

養徳社 検索

ホームページからご覧いただけます

No.60 2012.3.15

第6号(24年10月号)から

『陽気』は、昭和24年4月の創刊、今年で63年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。

もしも商売をするとしたら

私はこんな商売をやってみたい

宇井無愁(作家・平成4年没)

商売をしようと考えたことは一度もありませんのでお答えいたしかねます。もし客観的情勢が有利になってくれば、アメリカにあるような、新人紹介の原稿エージェントなどやれば、おもしろいかと空想しています。

塚田正夫(将棋棋士・昭和52年没)

新しい商売をする気はありません。只

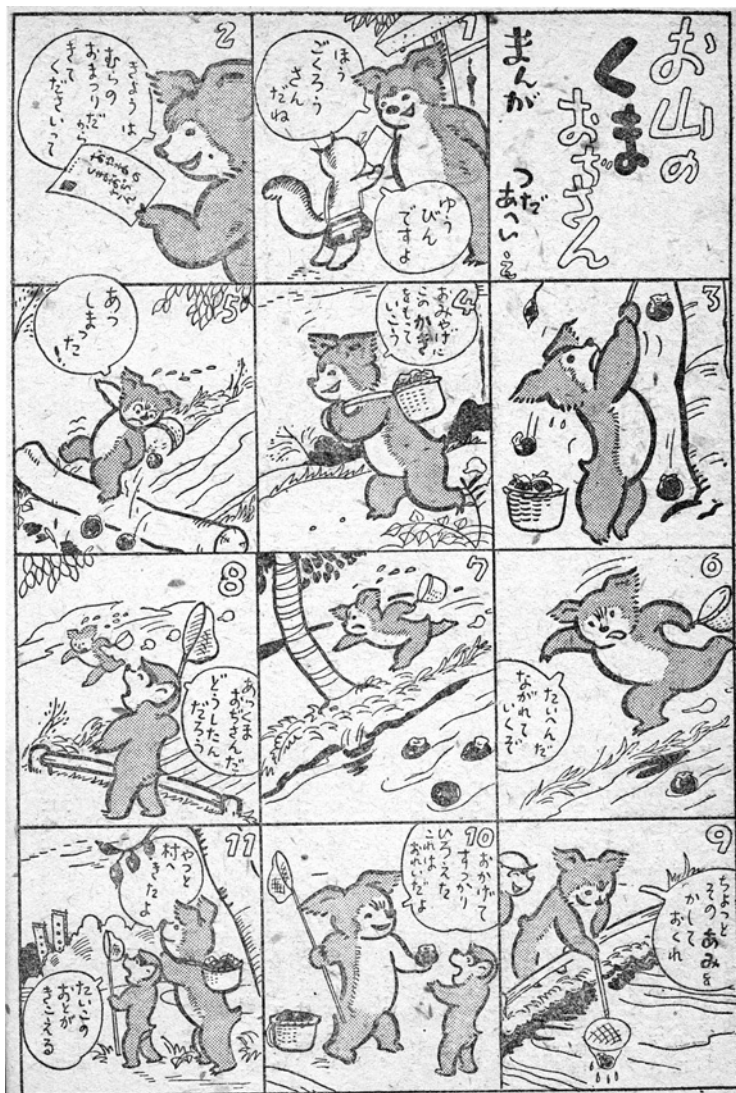
今考えているのに、銀座か新橋か場所の良い処へ、二階を将棋道場、

階下を喫茶店として、一石二鳥を狙って始めたいと思っていますが、将棋の語呂にある通り「桂角あれど金はなし」です。

子母澤 寛(作家・昭和43年没)

一、北海道へかえって、魚場をやってみたい。

二、祖父がそれをやっていたから。高いところへ家を建てて海を一望の下に置く。その縁先へ大胡坐を置いて漁船の活動している様を見ていたらいい気持ちだろうと思います。大漁旗をたてたり、応援頼むの合図を受けたりして喜んでい



る祖父の姿がまだ目に残っています。

長谷川 伸(作家・劇作家・昭和38年没)

金がダブダブあったら、全国に二十七八カ所以上、貸劇場をつくる。商売になるならぬはその運用次第であり、世の中に寄与するせぬも又その運用次第。金がそんなに沢山なかったら、買物の水先案内をやる。買う人は信ずべき店と信ずべき品物と値段がわからない。信ずべき条件が揃っていても広告の力がない、そういう店と品との紹介業。

徳川夢声(弁士・作家・俳優・昭和46年没)

小さな古本屋。タダで貰った新刊雑誌を片端から売るなら、好い気持ちだろうと思う。

林 房雄(作家・文芸評論家・昭和50年没)

馬鹿なことをたずねるものではありません。二つの芸当のできる奴は悪党です。

長谷川幸延(作家・劇作家・昭和52年没)

○小説、劇作、そして芝居やラジオドラマの演出―それが現在の仕事ですが、どうも金の事にうとく、ほかの商売は出来ません。○商売がえをしても、右の中の一つでなくちゃ駄目です。

神近市子(評論家・政治家・昭和56年没)

本の出版です。よい本を出して、日本人に文化とはどんなものかを、教えたいと思います。この理想をもった出版社は、今日も決して少くはないと思いますが、これが成立しないところに現実の悲哀があります。

だから私の場合、利益を度外する資本が必要です。

真実のはなし

或る時、大阪府の学務部長が二三人の人を随行につれて本部にやって来た。

「天理教を信仰すると財産をなくする者が沢山ある。どうしてそういうことをするのか、聞かして貰い度い」

と問うた。相手が相手なので、当時にはまだ少なかった部内の大学生が応接に出、いろいろと説明したが、どうしても納得してくれず、説明者もほとほと困却していた。

その時、東本の中川姉が参拝に来ていたので、姉が呼ばれることになった。中川会長は一応事情を聞いて、

「私のようなものが」

と辞退されたが、強いてのたのみに、ついにその学務部長に会った。そしておもむろに、

「人間がこうして目が見えさして頂ける

のも、指先一本自由に動かして頂くことが出来ず、皆これは尊い神様から御借りした体だからでございます」と話を始めた。すると、その学務部長は、

「わかりました。もうあとは仰しやらなくともよくわかりました」

と痛く感じ入り、満足したといわれる。

（聞き書）

一切は神の属



教祖殿前の梅（3月5日撮影）

私が幼かりし時、近所の子供らが夕暮に一同となつて遊びます。そして楽しき遊びが早終る頃、皆は笑い興じながら決つてこういう歌を唄います。

「屋敷を払うて田うりたまえ天理王の尊」
その時分、私の村にも天理教がいました。しかし、私の土地は、真宗の盛んな所ですから、勢い天理教は嘲笑され悪く

言われ通してした。考えると無理もないことです。何故なら天理教の発展によって、自分たちの生活が脅かされ、自然とお寺は寂しくなるのですから、坊さんたちが躍起となつて、何も知らない子供らに對しても、屋敷を払うて田売りたまえの歌を教えたことも、今から考えると本當に馬鹿な妬みです。

その当時、私は天理教の人たちが、わずかといえども、仲よく互に援け合い、愛しあつて、しかも貧しい人を見れば、喜んで自分たちの貧しい財布を献げた事実を聞かされた時に、子供心にも私は随分感動させられました。しかし財産や、すべての物を投げ出さねば救われない、貧乏になつて始めて天理教の神は救つて下さる、ということを知り、私はぞつとしました。

それは人間の所有慾を否定する教であると、私は思ったからです。爾来三十年、私の考えも段々變つて来て、今日では一切の所有慾を否定し、これを残らず神様に献げてしまふ。それ以後は、一切の財産を神の属として、管理させて頂く。自分の属としては、塵一つ持たない。すべては神様からお借りしているのだということがはつきりわかつて来ました。（宮崎安右衛門 米ちのとも 大正九、一〇）

養徳社 よもやま話

○……在庫書籍を保管する倉庫に空きがなくなつた。

本が傷まないようにパレットに互い違いに積み上げるが、倉庫に上げる貨物用リフトが小型のため、塊がコンパクトになり、その分パレットの数が増え場所をとつていた。種類毎に高く積み直し、在庫の少ない書籍は整理して空間をつくる。

作業が進む中、事務所にて一仕事終えて手伝いに行く粗方片づけられていた。

広くなつた倉庫を眺めて、腰を叩きながら、大きな積み木が重ねられたような本の塊を見つめ、「この本の魅力をもつと読者に伝えなければ」と、

広告、デザイン担当者。4月に期待の新作も入るし、出久根氏の講演会を聞いて勉強しよう。倉庫内の有様を憂えていた上司もこれでひと安心？。

※四月には、上記広告の本と、『親ひとすじー大竹忠治郎の「手記」解説』を出版します。

【出久根達郎講演会】

「本の数だけ学校がある」直木賞作家・養徳社エッセイ賞選考者。4月25日午後2時～3時半。往復ハガキ（一枚で一名）で申し込み。先着365名招待。詳細は「陽気」4月号目次に掲載しています。

主催・養徳社
電話 110743 (62) 4503

4月18日 祭刊 生誕 祖 教 発

人間がたすかる原理

「天の理」を解きほぐす

中臺 勘治 著
(報徳分教会長)

四六判並製 304 頁
定価 = 1,365 円 (税込)

養徳社 出版
天理市川原城町 388
☎(0743)62-4503
http://yotokusha.com/